

ありがとうは美しい

私は当たり前という言葉が好きだ。日常の大切さを感じられるからだ。

その当たりのひとつが、「ありがとう」だと思う。

「ありがとう」とはどういう意図での言葉なのか、知っているだろうか。抽象的に言えば、感謝を伝えるという目的の上での言葉だと言えるだろう。だが、一体何に感謝を述べているのか。そこまで考えたことはあるだろうか。

ありがとうとは、日常で何度も聞く言葉で、重い荷物を持ってくれたら、「ありがとう」プレゼントをもらったら、「ありがとう」落とし物を拾ってくれたら、「ありがとう」言われたらどことなく温かい気持ちになる。「ごめん」と言われるよりも、「ありがとう」と言われたほうが嬉しい。

「ありがとう。」と伝えたときに、「当たり前のことだから」と返されたことがある。誰も一度は聞いたことがあると思うが、感謝をされるようなことをするのは、当たり前なのだろうか。感謝をされるというのは、当たり前なのだろうか。

当たり前の中の感謝というものは数多く存在していて、一例を見ると、「おはよう」は「お早いお着きでございますね。」という意味。「おやすみなさい」も、「ゆっくりとお休みになってください。」という昔の社交辞令が由来だ。私たちは、挨拶を通して一日に何度も労われている。

だから、挨拶は嬉しい気持ちになるし、私たちも相手を労うために返さなければいけない。返すことで、労いへの感謝になるからだ。

当たり前すぎて、考えたことがなかったのではないだろうか。挨拶を交わすというのは、遠回しな謝意になる。

ありがとうの語源は「有り難し」。その言葉の通り、そう有ることが難しいと書く。つまり、めったにない貴重なことという意味なのだ。

それなのに、私たちは当たり前に対し感謝を述べる。それは自分の中に当たり前があるという事自体が素晴らしく貴重だと思っているからなのだろう。

私はこの利尻島で生まれ、豊かな自然に囲まれ育った。それが私の当たり前だ。貴方の当たり前はなんだろう。

毎日ご飯が食べられることかもしれない。好きな音楽に触れられることかもしれない。叶えたい夢があることかもしれない。

その当たり前は自分自身で、私にも貴方にも、赤の他人にも、数多くの見えない「当たり前」があり、決して誰かと同じものではない。

だから私と貴方は違う。同じ人ではない。

私は今日も当たり前「ありがとう」という。

今あるたった一人の自分に、貴方に、感謝を伝える。

だが、「ありがとう」を重く言う必要はない。当たり前というものに当たり前感謝をしているのだから、日常という部屋の隅に、ただひとつ、「ありがとう」が在ればそれでいいのだと、そう思う。

だからこそ、改めて考えたときにありがとうというものが大変美しく見える。

そういう思いを大切にしよう。月の終わりでもいいし、年に一度の特別な日でもいい。ふと思いついた時でもいい。今日過ごした貴重でありふれた当たり前を、考えてみるのもいいのではないだろうか。